富山市定例市長記者会見（令和２年９月１日）

■冒頭

市長

９月１日になりました。本来ですと９月１、２、３日と越中八尾のおわら風の盆です。こういう（良い）天気なのに、（中止になり）大変残念で、毎年この日は夜７時にオープニングの挨拶に行くのが恒例の行事になっておりました。特に踊り手の方も地方の方も含めて、おそらく、おわらの関係者の方々は、大変寂しい思いでいらっしゃると思います。町内によっては、自分達自身で、町内で（あっても踊りや唄うことを）することを止めようと決められたところもあるそうで、前夜祭もなかったわけですし、あの調べが、ゆっくりでもいい、静かでもいいから流れてくるだけでも良いのになあと思っております。来年はしっかりやれるように、コロナの終息、落ち着いた状態になるよう、いろいろな所でお互いに取り組んでいくことが大事だと、改めて今日は朝から思っております。

今日ご報告することにつきましては、全部で５件ございます。順番に説明をしていきたいと思います。

■未来共創拠点施設「Sketch Lab（スケッチラボ）」の供用開始およびオープニングセレモニーについて

市長

初めに、前にパースを掲示してありますが、未来共創拠点施設「Sketch Lab（スケッチラボ）」の供用開始およびオープニングセレモニーについて報告するものであります。今年度富山市は、新たに地域課題解決型の官民連携プラットフォームを構築するとともに、産学官民の交流や共創の場を提供することで、オープンイノベーションによる新たなビジネスの創出や、本市の関係人口の拡大につなげることなどを目的とした「とやまシティラボ推進事業」に取り組んできたところであります。

この度、市が富山駅前CiCビル3階に整備を進めてまいりました産学官民の交流・共創活動の拠点施設である「Sketch Lab（スケッチラボ)」が完成し、今月（9月）７日から供用を開始することとなりました。

この「Sketch Lab（スケッチラボ)」は、市内及び県内の企業はもとより、首都圏等を中心にビジネスを展開する県外企業のほか、地域課題について研究を行う大学等の研究者や学生など、多様な人材が交流し、新たな価値を創造するための会員制の交流・コワーキングスペースであります。

イメージしやすいように柔らかく言いますと、東京だといくつかこの様な空間があります。いろんな企業や大学研究機関、シンクタンクなどが、所属の場を超えてお互いに交流しあい、自由に集まり、自由に意見を述べあったり、提案しあったり、あるいはある企業が持っている素材や技術をある企業に紹介することで、そこから新しいイノベーションが生まれたりすることを期待しておりまして、そのためには、早急に何かの成果を求めることをしないで、まずは市が空間を用意して、そこで世代や所属や立場を超えて、いろんな人たちが任意に集まって自由に意見交換をしたり、情報提供をすることから始めていく。そしてそれが、先ほど言った様なハイスペックなイノベーション、あるいは、横に広がるような、ある領域とある領域の融合といったイノベーションに繋げたり、ということになっていけば良いと期待して設けたものであります。

今も少し言いましたが、空間を設けたからといって早急に何かを作って欲しいということではありません。まず立場を超えた話し合いや、軽くワインやビールを飲んだりしながら、自由に意見を言う中から何かが生まれてくる、そのシーズ【※】とまでいかないけども、その前の段階、何か生まれてくる場を提供したいと思った次第です。

本当は市だけでやることではなく県がやることだと思うのですが、CiCの空間を市が保有していますので、まずそこから始めていこうと思います。

【※】企業が新しく開発、提供する特別の技術や材料やサービス。

今年７月には、この「Sketch Lab（スケッチラボ)」を拠点に様々な活

動を行う「とやま未来共創チーム」が、市内の若手経営者や起業家を中心に設立されており、市は、この組織とも連携して事業を推進してまいりたいと考えております。

なお、本施設を利用するには会員登録が必要であり、今月中は新規会員募集のキャンペーン期間とし、1 月（ひとつき）分の会費を無料としておりますので、この機会に是非多くの方にご登録いただきたいと思います。

また、供用開始前日の 9 月 6 日（日）には、午前にオープニングセレモニー及び内覧会を行い、午後にはオープニングプログラムとして市民参加型のワークショップである「とやま未来共創会議」を開催いたします。

今後、この「Sketch Lab（スケッチラボ）」での交流等を通して、オープンイノベーションが促進され、多くのスタートアップ企業やベンチャー企業が育成されるなど、本市の未来に向けた新たな価値が創造されていくことを大いに期待したいと思います。

■富山で働く人材応援奨学資金貸付事業について

市長

次に、富山で働く人材応援奨学資金貸付事業についてであります。富山市では、若年者の市内企業への就職を後押しするため、令和 3 年度から新たに、市内の非課税世帯に属する高校生が、県内の大学や短大へ進学する場合に奨学金を無利子で貸し付ける、「富山で働く人材応援奨学資金貸付事業」を実施することといたします。

この奨学金制度は、これまで経済的な理由で大学等への進学を断念せざるを得なかった方に対し、富山に住んで、富山で学び、富山で働く、という新たな選択肢を示すことができるものと考えております。

奨学資金の額といたしましては、入学奨学資金として 10 万円を上限に 1 回、また、生活奨学資金として年 16 万円を正規の修業期間を限度に貸し

付けするものであり、この申請受付は来年４月から５月に行うこととしております。

特に、この制度では、卒業後５年間、市内の企業等に正社員として勤務された場合、貸付金の返済を免除する規定を設けることとしており、優秀な人材が市内企業に定着し、学業で身に着けた知識や技能を存分に発揮していただくことで、地域産業の発展を期待するものであります。

なぜ、令和３年度の新規事業として予定しているものを、今ここで発表するかというと、大学等への進学を検討される際の一助となるよう、９月定例会において、この奨学資金をPRするための予算を上程することとしております。高校などに、こういう制度を新しく作ります、ということをしっかり伝えていきたいと思っております。

■富山で働き・学ぶ生き方応援奨学資金貸付事業の拡充について

市長

次に、富山で働き・学ぶ生き方応援奨学資金貸付事業の拡充について申し上げます。富山市では、働きながら通信制や夜間制の大学等で学ぶ方を対象に奨学資金を無利子で貸し付ける「富山で働き・学ぶ生き方応援奨学資金貸付事業」を、本年４月から開始しております。

このたび新たに、就学先に県内の大学院を追加し、また、大学院については、主に昼間の就学となることから「市内企業等に勤務しながら」という要件をはずし、就業先を休職又は退職される方も貸付の対象とする拡充を行います。

貸付額につきましては、入学金は10万円、学費は年額50万円を上限とし、それぞれ負担費用の２分の１となっております。

返済期間につきましては、原則卒業後５年間ですが、卒業後５年間、正社員として市内企業等に勤務した場合に返還を全額免除する取り扱いは、先程説明しました「富山で働く人材応援奨学資金」と同様です。

この奨学資金を活用して大学院を卒業された方が、元の就業先に復職あるいは別の市内企業等に就職して5年間勤務された場合にも、返還を全額免除するものであります。

大学院において高度な知識や技術を身に着けられた方に、市内の企業等で能力を発揮していただくことで、地域産業の活性化に繋がるものと期待しております。

なお、これらの事業は、今年度創設しました「富山で働き・学ぶ生き方応援奨学基金」を財源とする予定であり、企業をはじめ市民の皆様におかれましては、優秀な人材の育成・確保という観点からも、ぜひこの制度を応援していただきたいと考えております。

4月に新しく作った制度は、通信制や夜間の大学へ富山市で働きながら進学する人に対して貸付けをする、同じように5年間働いてもらえば返済を免除する、その用件の中に昼間の県内の大学院に通う人も追加するという拡充です。このように考えてもらうと分かりやすいと思います。

■ひとり親家庭奨学資金貸付事業について

市長
4番目は、ひとり親家庭奨学資金貸付事業についてです。

似たようなのがたくさんあって混乱なさると思いますが、とにかく基本的な考え方は、市内で高校を卒業されて県外の大学に行くと言う選択肢ばかりではなく、市内で働きながら学び、そして新たに違うところであっても、市内の企業に（再度）勤めていただきたいということの奨励のための諸制度です。

これまでも、子どもの貧困の連鎖を防ぐことを目的に、国家資格等取得を目指すひとり親家庭の子どもを対象に「ひとり親家庭奨学資金給付事業」を

実施し、こうしたご家庭を支援しております。今までの給付事業といいますのは、ひとり親家庭（の子ども）が資格取得のために大学や専門学校に行く場合に奨学資金を給付するものであって、返済が不要な制度としておりました。そこを拡充し、市内のひとり親家庭の子どもが、県内の大学等へ進学する場合に奨学金を無利子で貸し付ける、『ひとり親家庭奨学資金貸付事業』を新たに加えるものです。

この貸付制度は、国家資格等の取得を条件とせず、県内の全ての大学・短大・高等専門学校・専門学校を対象とし、奨学資金の額としましては、入学奨学資金として入学時に 10 万円、学費奨学資金として年額 17 万円といたします。こうしたご家庭の子どもたちが、希望する富山の学校で学び、市内企業で就職することにより、人材の定着につながるものと考えております。

今までの制度は、何らかの資格取得が可能になる学校だけを対象にしていましたが、これを加えることによって、例えば、文学を学ぶとか都市工学を学ぶとか県内にある学校で、資格取得ではないコースへ進学する方も対象になってくると言う意味です。

しかし、前のほう（これまでの制度）は給付金でしたが、今度は貸付金であります。この事業は平成 26 年 3 月に創設した福祉奨学基金を財源としており、このように事業を拡充することができるのも、趣旨にご賛同いただき、多額のご寄附をしていただいた篤志家・企業経営者の皆様のおかげであり、改めてここに感謝の意を表したいと思います。

また、富山で働く人材応援奨学資金と同様に、卒業後 5 年間、市内の企業に正社員として勤務された場合、貸付金の返済を免除することとしており、優秀な人材が市内企業に定着することを期待するものであります。

これも先程のもの（富山で働く人材応援奨学資金貸付事業）と一緒で、9 月定例会において、新しい奨学資金を PR するための予算を上程することとしていることから、今日ここで発表させていただいたものであります。

■農林水産物ワンデージャックフェスタについて

市長

最後に、これは６月定例会に上程し議決された事業ですが、農林水産物ワンデージャックフェスタについて申し上げます。

この度、新型コロナウイルスの影響により、市内産農林水産物に影響が出ていることから、市内産農林水産物の需要喚起を図ることを目的に「富山市農林水産物ワンデージャックフェスタ」を９月 20 日（日）に開催します。

このイベントは、路面電車沿線の岩瀬カナル会館、富山駅南北自由通路・南口駅前広場、グランドプラザ、ウエストプラザ、大手モールの５つの複数会場で同時に開催します。

各会場における概要についてご説明しますと、岩瀬カナル会館では、岩瀬の朝市や､限定 200 食のシロエビのから揚げをふるまうこととしております。また、定置網漁の仕組みを楽しみながら学べる「ミニチュア定置網体験」の実施など、水産物や、水産業に触れ合える場を創出します。

次に、富山駅南北自由通路・南口駅前広場会場では、市内産農林水産物や加工品、酒、スイーツやテイクアウトグルメの販売を行い、市内産農林水産物の魅力を創出し、市民が憩える場を創出します。

グランドプラザ及びウエストプラザでは、フラワーアレンジメントによるモニュメントの展示や、フラワーアートのワークショップを開催するなど、様々な花きとのふれあいを通じ、子どもから大人まで楽しめる場を創出します。

大手モールでは、トランジットモールを実施し、市内産農林水産物の販売や、飲食の提供を行い、市内産農林水産物に親しみ、子どもから大人まで楽しめるおしゃれな場を創出します。なお､「はたらくくるま～スマート農業編～」として、普段接する機会の少ないスマート農業機器等の展示及び乗車体験を行う予定にしております。

さらに、民間事業者主催事業の「路面電車 de トレジャーハンティング」や「富山城フェス」とのコラボレーションなども予定しております。

また、公共交通利用者の減少により収益が悪化した交通事業者を支援することを目的に、各会場に花束等の販売ブースを設置し、花束等を 500 円以上購入した方には、路面電車の 1 日利用券を配付するとともに、路面電車の車両内を花で装飾した「フラワートラム」を運行することにしております。なお、花で装飾したフラワーアヴィレの乗車体験も行うことにしております。

当日は、オープニングセレモニーを、富山駅南北自由通路において 10 時に開催することにしており、飲食店の営業やイベント自粛などで落ち込んだ酒類の需要喚起を図るため、市内 5 酒蔵の酒樽で鏡開きを行い、各蔵の日本酒ミニボトルを配布することとしております。

また、グランドプラザにおいて、11 時から「with コロナ、after コロナ」をテーマにした、トークセッションを私と富山市物産振興会の塩井会長とで行うこととしております。

イベントの概要としては以上となりますが、本イベントは、新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で開催するイベントとなるわけですが、これまでの集客・賑わい創出イベントとは異なる視点・工夫を凝らしたイベントとする必要があります。

マスクの着用や消毒液の設置などはもちろんのこと、例えば、各会場のピークとなる時間を分散することにより、会場間の回遊性を高める仕組みとすることや、飲食ブースでは長居を避けるために立ち席のみにするなど、新型コロナウイルス感染症との共存を図る新しい生活様式の中での今後のパイロットケースとなりうるイベントとなるよう、取り組みたいと考えております。是非ご参加いただきたいと思います。

以上 5 件のご報告でありました。先ほども言いましたが、似たような奨学資金や貸付資金などがありますが、狙いは、ぜひ県内に残って県内で学ぶ、そして、あるいは非課税世帯等で財政的な理由から進学できない人にも学ぶ場へ何とか行って欲しいと言うことをお手伝いしたい、と言う趣旨で、今回

はいくつかの新たな貸付制度を創設したということであります。ゆっくり整理していただければありがたいなと思います。既存の制度と合わせて支援していきたいという思いであります。

==========

■質疑応答

記者

7 月 2 日以降市内でたくさんの新型コロナウイルス感染者が確認されています。現状の感染状況を市長はどう受け止めているのか、お聞かせください。

また、魚津市ではカラオケ機器を備える飲食店で高齢者を中心としたクラスターが発生しました。魚津市の村椿市長は事業者に対策に取り組む設備の整備等に要する経費を助成することを決めましたが、富山市としてもカラオケ店など事業者に対する注意喚起、経済支援を行う考えがあるか否かについてもお聞かせください。

市長

先日の緊急記者会見で申し上げましたが、ある時点から急に増えてきて、そのことに非常に強い危機感を感じて、お盆前に注意報と言う形で市民の皆さんに注意喚起をお願いしたわけです。

しかし、その後、カラオケによるクラスターなどによって、高齢の方の感染がさらに増えるという傾向が現れましたことから、8 月 24 日に注意報から警報へと警戒のレベルを、印象として上げていくということを狙ってアピールしたわけですが、注意報を出すと増え、警報を出すと増えるという逆の数字が出てきていることを非常に強く危惧しております。ただ一人ひとりの市民の方に直接話しかけることはできませんので、こういう場を使って、さらなる注意をお願いしたいと言うことに尽きるわけです。（カラオケ設備があると）わかっている限りの事業者の皆さんに対しても、カラオケセットの消毒ですとか、店の換気だとかそういう事についても、充分に、お願いをしているところです。

前回の記者会見で申し上げましたが、カラオケ設備があるすべての店を把握しているわけではありませんので、食品衛生法上の許可（申請）の時はそういうものが無くて、後でカラオケ設備を入れたと言うお店は、たくさんあると思いますので、それを全部補足することができませんので、こういう形で注意をお願いするしか方法がないということだと思います。また、市民のみなさんに対しては、やはり手指消毒や消毒液で消毒をするとか、三密を避けるとかそういうことに一人ひとりがしっかり取り組んでいくということを訴えていくしかないと思っております。

いずれにしても、最近、飲食店関係の感染者が増え、その方の濃厚接触者に広がっていくという形です。ここ数日間に報告受けているのは、比較的（感染）経路が追えている方が多いので、これは濃厚接触者の方を全部検査すれば「ここまでが陰性で最後にこの方は残って陽性でした」というような事は把握していきますので、その方からのさらなる広がりというのは防げるだろうと思っています。

飲食店等は、最近、アクリルボードで仕切ったり、空気清浄機を設置したり、あるいは席数を減らしたり、お店によっては入り口のドアを開けて網戸にしたりというように、いろんな取組みをされているわけです。ところが、そういう（取組みをされている）お店でも、従業員の間で感染したという例等の報告もありますので、お店が（感染防止対策を）しっかりやっていても店の経営者や関係者、従業員の方、あるいはお客さんがどこかで感染したままお店にお客として入ってこられたという場合には感染者が出てしまう。お店の人に感染しない努力をしていれば、それはそこで防げるのだろうと思っています。

いずれにしても、カラオケ喫茶でのクラスターを受けて、保健所ではカラオケだけでなく、市内の飲食店等に向けて注意喚起を行ったところですが、ホームページでの周知に加え、今月から民放のテレビ局やケーブルテレビでも、注意喚起を重ねて行っていくこととしております。新たな注意喚起の映像、新しいバージョンのものを作って放送してもらうこととしております。とにかく経営者の皆様には従業員の健康管理や注意喚起、ソーシャルディスタンスをお店の中でしっかり取ってもらうようにご留意を

いただきたいと思っています。
先ほども申しましたが、結局行きつくところは、一人ひとりの意識の高まりと努力だろうと、面倒がらずにしっかりやっていただきますよう強くお願いしたいと思っています。

魚津市がカラオケ店に（感染拡大防止対策事業費を助成することを）この質問で初めて知りましたが、県の（感染拡大防止対策として）アクリル板の整備などに 10 万円出すという制度では、対象の店舗からカラオケ店が外れているはずです。なぜならカラオケ店は、それをしても密を避けられないからです。カラオケ店が密を避けるときは、ものすごく広いスペースで、全て個室にするとか、大改造が必要になってくるので、そこは現実的な議論として難しい。もしどうしてもおやりになるという事が出てくれば、市が作っております富山市緊急経営基盤安定資金融資制度（新型コロナウイルス感染症対策支援特別枠）の 5 千万円を使っていただければ、こちらとしては、制度を作った意義がありますので、そういうものを使ってコロナウイルス（感染防止）対応のお店に仕様を変えていただくとしたら、大変ありがたいと思っています。

今のままのカラオケ店でどう（感染防止対策が）出来るのか、魚津市が新しい政策で何を期待なさっているのかよく分からない。どうしてもカラオケ店は密になるでしょう。スナックや喫茶店でカラオケ設備を入れて、やっぱり密は避けられないと思うので、本当はそういうような対応のところでカラオケを楽しむと言うこと自体を避けていただいて，個室のカラオケ店などを利用して頂くという事の方が望ましいのではないかと思います。

私はカラオケをやらないので、カラオケ店がどういう構造なのかよくわからないですが､きっと 1 人で使える個室みたいなものもあるのでしょう。少なくとも、僕のイメージの中にあるスナックなどのカラオケがある所でアクリル板を立てたところで、おそらく立って歌うわけでしょうし、密は密だと思うので、利用者にはそういう環境は避けてもらいたい。専門のカラオケ店で個室などを使っていただければありがたいと思います。

記者

市長は今期での退任を表明されていますが、未だ立候補者の名前が具体的に挙がっていません。この現状についてどう受け止めているのか、お聞かせください。

市長

若い方で一人、私のところに直接、強い意欲があると言ってこられた方がおられます。お名前は言えませんが。でも、その方は富山の方ではなかったので、よく考えてくださいという風にお伝えしまして、その後は接触して来られません。富山の地域性から言うと、落下傘みたいに降りてこられても、なかなか当選するのは難しいのではないかということを行間に滲ませてお伝えしたつもりです。ただ、出馬されるのはご本人が決めることなので。事実として、ある方が直接、私のところに強い意欲がありますと言って来られたことが 1 件あります。

もう 1 件は、地元から強い要請があれば考えると言っていただいた方がおられます。これは逆で、舞台を作ってくれるのであれば、ということです。いつも申し上げていますが、私が強くこの人に是非やってもらいたいと申し上げることがあるとすると、それはやはり自らの強い意欲をお示しいただくことが必要だろうと。そうでなければ、こなしきれないと思います。何があってもやり抜くという強い意志で手を挙げるとか、相談に来ていただく方を待っているわけなのですけれども、2 人とも実は内心そうなのかもしれませんけれども。形としてもう少し強い意欲が感じられるような形で接触をしていただきたいと思っています。その 2 人以外は一切どなたも接触してきていません。やはり総裁選ということになれば、なおさら皆さんこの事に意識、関心がいきますし、その後は知事選に関心がいきますし、万一（衆議院が）解散ということになれば、おそらく 10 月 25 日に選挙になるでしょうから、そうすると益々そちらへ関心がいきますので、やはり落ち着いて来春の市長選ということになると、10 月 25 日が過ぎてから動きが出てくるのではないかと予想をしております。これは初めて言いましたよね。一人ひとりの名誉がありますから、お名前を申し上げるこ

とは出来ませんけれども、事実として起きた現象はそういうことです。誰か出てきてもらわないと、政治日程に空白は作れませんので、ということになりかねませんので。

==========

記者

2 人目の方は市内の方かお聞かせください。

市長

違います。最初の方も違うんですよ。なぜか富山市民が相談に来られないで、富山市民じゃない方が（来られる）。首長は住所をおいてなくても（立候補することは）出来るから、そのこと自体は問題じゃないので。

記者

富山市民病院の件で、コロナの影響で最大 38 億円近い赤字の見通しになり、9 月補正でも減収対策が出ていましたが、40 億円近い赤字は前代未聞だと思います。今後の病院経営に関して国や県へさらなる支援を求めるとすれば、どのような支援を求めていきたいと考えているかお聞かせください。

市長

コロナの影響で経営難に陥っている、コロナ患者を受け入れている病院についてさらなる支援をする、という話は安倍総理が辞職を表明される前にご発言がありましたので、それがどういう制度として作られていくか、まずは注目していきたいです。そして、ある種の交付金を作られるのだと思うのですが、それが富山市民病院もその対象としてなじむということであれば、それはもちろん富山市もお願いしてそれを使わせていただくということになると思います。

しかし、単純に考えても、全国にそういう公的病院は沢山あって、どこも赤字に苦しんでいるわけですね。どうやって交付金を配分するのかとい

うことがまだ全然見えていないわけですし、その交付金を作るとしても総額がものすごく大きい金額になってしまいますので、今年度、（国の補正予算が）一次、二次を入れて 160 兆円ほどになっているものを、さらにこれ以上となっていくのかということもあって、そういうもの（国の新しい交付金）ができたから安心だね、ということではないと思います。いくらかは使わせていただくことはできると思いますが、それは（赤字分の）38 億円を埋めるほどのことになるわけではないと思いますし、その 38 億円（の赤字）ができてきた原因のひとつは、すべてがコロナ患者の隔離等の対応によって生まれてきたわけではないので。要するに風評などが心配で受診を控えるというような人がたくさん出てきたことによって、全国のコロナ患者を受け入れていないような病院にまでも影響が出ているということですから、この分まで何か特別な交付金で補填されることになるとはとても思えません。なので、ここは一旦、赤字分について、公営企業会計ですから、例えば、借り入れをして長期にわたって返していくとか、一定程度一般財源を入れるとか、今年度中に、そのあたりを最終的な赤字見込み金額を見据えながら対応していくことになるだろうと思います。

まずは、病院の経営のなかで検討をして、病院事業管理者の責任において検討していただきたいと。でも一般会計のお手伝い無しにはなかなか難しいと思っておりますので。4 月にクラスターが発生した時から申し上げていますが、これは災害だと思っていますから、財政調整基金を当てていくと。こういう時のために財政調整基金があるわけですから、そこは躊躇なくやっていきたいと思っています。

記者

最初の「スケッチラボ」について、改めてこうした施設を作った背景や、今後のまちづくりを見据えた問題点や課題があるなかでどういった位置づけなのかお聞かせください。また、結果を急がないとはいえ、何か見える形でのゴール設定を考えているのかお聞かせください。

市長

以前も申し上げたと思いますが、具体的な名前を出して申し訳ないのですが、例えば、コーセルとか立山科学とかはみんなベンチャー（企業）だ

ったわけです。特に富山は不二越の仕事を受けていたとか、不二越に勤めていたという人たちで、そこから出発されたベンチャーの創業者という方がたくさんおられて、ある時期、富山というのはそういう地域だったわけです。そういう企業がどんどん大きくなっていって、東証一部上場でも 10 社あるような産業構造の中で、そことの取引を行っている下請け、孫請けに至っても安定して経営しているという中から、仕事のやり方が固定化しているというか、言葉は悪いですが硬直化していると。こういうところからはスタートアップ企業は生まれてこないと思うんです。これは富山市だけではない、富山県全体にいえることだろうと思います。これからの時代を考えると、そういう中からでも、新しいシーズが芽生えてくるという環境を作っていかないと、県全体の産業構造として乗り遅れていくと思いますね。

例えば、高岡だとデザインとか伝統工芸とかを中心に新しい起業が出てくるということなどが考えられるでしょうし、同じように富山も（考えていかなければいけません）。例えば、ある時、前川製作所のオーナーとお話ししましたが、「富山市のいくつかの企業は我社にとって絶対に取引をやめては困る優れた技術を持っている」と（言われました）。一つだけ名前言いますと、「日建プラント」という大沢野地域にある小さな企業ですが、あんな大きな企業（前川製作所）のオーナーが富山にそういう技術のある企業がたくさんあるとおっしゃっている、そういう企業の持っている技術がそこで止まっていないで違う領域の企業でそれが使えるというようなことに、マッチングしていくことなども新しいイノベーションを生む仕掛けだと思います。前も言いましたが、小松マテーレと三菱ケミカルが組まれて、ファイバー状の耐震装置が生まれてきたということがあるわけです。だから、もう少し固定化した経営のあり方ということから、もっと柔軟で新しい発想が芽生えてくるような経済風土というか、企業風土というものを作っていかなければなりません。

ラクスルの松本さんは、射水市出身ですが富山で起業しないで東京で起業している。ほかにもいらっしゃるわけですね、そういう人たちが。そういう人たちが、次にやるときは富山でやろうと思ってもらえるような、あるいはそういうのを見ながら同じような若い世代が富山で新しいアイデアで起業するみたいなことを最終的に期待しているわけですが、まずは、

堅苦しいことではなくて、リラックスした中で自由に話し合いができたり、「来週また会おうよ」というような場を、そういう関心を持っている人たちに使ってもらうということから始めようとしたわけです。

前に訪ねてこられた 32 歳の女性が起業している会社（を訪ねました）が、かなり広い、みんなほとんど横になって、くつろいでパソコンたたきながら仕事していたり、ものすごくフレキシブルな勤務形態で、リモートでやっている人もたくさんいるということなんですね。先ほど言った松本さんも、従業員は 400 人いるそうです。それで、自分は 4 月に本社に行ったのは 2 日だけだと言っていました。そういう時代になってきているのだから、必ずしも東京に体を固定させなくても、地方で仕事ができるということが現実のものになりつつありますから、そういう方々も含めて楽しく集まれる場を作ることから始めていきたいということです。

ここでお酒を飲んだりしてもいいんです。やはりそれぐらいのことをやらないと柔らかい発想は出てこないと思います。

かつて（東京で）講演してほしいと言われ、そのような雰囲気のところで何度かお話したことはありますが、東京は結構ありますね、企業の垣根を越えて集まっているグループとか。そういうのが富山にはあまりないので、うまく集いの場になればいいと思っています。

記者

特別定額給付金の結果や、それを受けての感想についてお聞かせください。

市長

8 月 27 日までが申請期限ですから。7 月半ば頃に聞いたときは 98%ぐらいだったと言っていたから。申請しない人は必ずいるから、100%にはならないと思いますけど、順調に給付は期限までに出来たということだと思っています。

ちなみに私は梶田博士の研究を支援する東京大学にある基金に寄付しました。長い目で見ると、富山に返ってくるというふうに（思っています）。

スーパーカミオカンデやそのあとに続くハイパーカミオカンデに、今も世界から研究者が来ることになっているし、多くの人が集まりますので、そういう研究者を育成する研究機関に全額寄付をしました。その基金を使って、若い研究者が色々と伸びていくといいと期待しております。

==========

記者

スーパーシティ構想に手を挙げる方針に変わりがないのか、規制緩和の具体策についてお聞かせください。

市長

素晴らしい質問ですね。結論から言うと手を下ろしました。住民投票をすることが要件になったのです。私は一貫して住民投票というものが大嫌いなので。それが要件であれば、手を下ろそうと思いました。

例えば裾野市とトヨタが考えているものについて言いますと、トヨタが考えているのは特定のエリアで近未来の都市を作ろうとしていますが、そのことを裾野市全体で住民投票した場合に、可と出るか不可と出るかはすごく分からないですよね。そのエリアの外の人にしてみれば、あまり関係が無いので。理解を深くする人は、そこで行われていることが反射的に我々にも深く関係して賛成なさるという人もいるでしょうが、そこだけの話で、自分は関係ないという人だっているわけです。そういう中で住民投票が要件にされたということは、今言われた規制緩和みたいなものについての、全市民的な理解をということだと思いますが、それはなかなかハードルが高いと考えましたので、手を下ろしました。

==========

記者

昨日大相撲の番付発表で、朝乃山関が東の大関になりました。市長から叱咤と激励をお願いします。

市長

やはり経験を積み重ねていくということが大事なので、先場所、急に優勝というようなことにならなかったですけれども、それは前向きに考えて良い経験を積んだと。ああいう経験が出来たことは、すごく良かったと思っているのです。落ち着いて見て、立つとか、技術的なことは詳しく分からないけれども、そういうことなども重ねながら盤石の大横綱に将来なってほしいというふうに思います。

したがって、今場所は大事な場所だと思います。12 勝だったものに対して、今場所は 13 勝出来ないのかとか、横綱に必ず一勝することなどを一つ一つこなしていけば、大横綱になることができるのではないかと期待しています。（朝乃山関が）東の大関になって、西の大関の婚約の話が出たから、こっちのほうも負けずに頑張ってほしいと思います。

==========

※ 発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課